

11月の県内景況調査結果の概要

1. 主要指標の前年同月比DI値の動き

2年11月のDI値は8指標中、「販売価格」「取引条件」の2指標が上昇。残り6指標については下落となり、特に「売上高」においては2桁の大幅な下落となった。6月以降窺われた改善傾向に再び若干の翳りが見受けられる。

2. 県内中小企業の景気の現状

建設業関連では需要が堅調であり、自動車販売整備業においても先月に続き前年度比プラスとなり、需要が好調であった様子。また受注数の増加や個人消費の上向き、荷動きが回復傾向にあるなどの明るい報告も寄せられた。

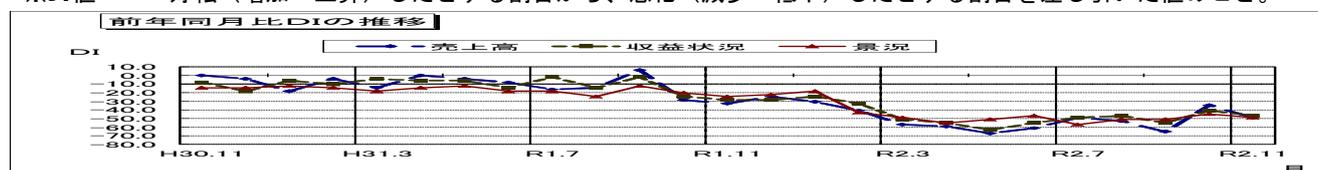
一方、依然として続く原材料高や労働力問題に加えて、長引く新型コロナウイルスの影響により厳しい状況が続いており、先行きを不安視する声も多く業種から寄せられた。

景気は米中貿易摩擦や日韓関係の悪化など緊迫する国際情勢、また我が国をはじめ世界中で出口の見えない新型コロナウイルス問題など国内外経済の下振れリスクが顕著化してきており、一部に持ち直しの動きがあるものの景気の低迷が続いている。県内中小企業においても、更なる景気の悪化に備える必要がある。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移

	R1 11月	12月	R2 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	前月比 増減
景況	-24.5	-22.4	-18.4	-42.9	-49.0	-55.1	-51.0	-46.9	-57.1	-51.0	-51.0	-44.9	-49.0	-4.1
売上高	-32.7	-24.5	-30.6	-40.8	-57.1	-59.2	-67.3	-61.2	-49.0	-53.1	-65.3	-34.7	-49.0	-14.3
収益状況	-28.6	-28.6	-24.5	-32.7	-51.0	-55.1	-63.3	-55.1	-49.0	-46.9	-55.1	-40.8	-46.9	-6.1
販売価格	10.2	10.2	12.2	8.2	2.0	-12.2	-2.0	-2.0	0.0	-6.1	-10.2	-8.2	-2.0	6.2
取引条件	-8.2	-4.1	-4.1	-14.3	-20.4	-30.6	-26.5	-18.4	-22.4	-18.4	-12.2	-18.4	-16.3	2.1
資金繰り	-12.2	-16.3	-18.4	-26.5	-32.7	-40.8	-40.8	-36.7	-30.6	-20.4	-24.5	-18.4	-24.5	-6.1
設備操業度	-8.2	-4.1	-2.0	-8.2	-10.2	-14.3	-14.3	-22.4	-16.3	-12.2	-18.4	-14.3	-16.3	-2.0
雇用人員	-2.1	0.0	-2.0	-6.1	-12.2	-18.4	-8.2	-10.2	-10.2	-10.2	-6.1	-6.1	-8.2	-2.1

※DI値・・・好転（増加・上昇）したとする割合から、悪化（減少・低下）したとする割合を差し引いた値のこと。



[景況関連の報告]

【製造業】

<食料品>

1. 味噌・前年同月比、みその生産量は95.6%出荷量は93.7%となった。参考までに全国のみその6月前年同月比は生産量87.4%出荷量100%となった。因みに県内の6月前年同月比は生産量87.2%出荷量98.3%であり、全国と状況は変わらない。とりわけコロナ禍での売上増のための営業に工夫が求められている。
2. 漬物・漬物製造業では前月と変わらず取引先により好不況が顕著である。特に土産物、飲食店等を取引先としている業者は売り上げの落ち込みが激しいがスーパー関係は好調である。農家については多少在庫の増加がみられるが概ね前年と変わらない。
3. 醤油・食育事業として上部団体では「しょうゆもの知り博士出前授業」を実施している。今年はコロナで調理実習や工場見学等も出来ず、出前授業を申し込んで来る小学校が多く、徳島県でも5校からの依頼があり、組合の「しょうゆもの知り博士」がコロナ対策をして出前授業を実施した。

<繊維・同製品>

4. 縫製・新型コロナウイルスの影響と断定できないまでも、製造業の景気悪化が徐々に現れ、今後の景気対策が見えない現状が続いている。景気冷え込みの長期化に備え、引き続き企業体力堅めに注力している。生産については、来期に向けての製品備蓄を開始し、来年初めまで在庫増となる。
5. 縫製・新型コロナウイルス感染症の景気への影響。

<木材・木製品>

6. 製材・取引の減少により生産調整を続けている工場もあるが、一部の製材工場では原木不足により生産に支障をきたしている。
7. 木材・新型コロナウイルス感染症がとにかく景気を下抑えしている。これが何とか収束しないと経済をどうするかなどの話にもならない。来年の今頃、どうなっているか想像もつかない。
8. 木材・原木丸太の入荷は例年くらいになり、製材所からの注文が増え、丸太が足らない状況。12月に入り、冬の心配もあり出来るかぎり丸太の入荷を期待したい。

<印 刷>

9. 印 刷・年末を控え景気の上向き気配は全く感じられなく、月も売上高が減少する厳しい月となった。イベント関係だけでなくカレンダーの需要も減少している。年末に向けてコロナ第3波も収まりそうにない。厳しい状況が予想される中、出来るだけ固定費を落として体力を温存しておかなければならない。
10. 印 刷・10月に引き続き11月は、最悪であった月に比べると売上高、収益状況とも改善されてきているが前年同月と比べると売上高ベースで10%~30%の減少という組合員が多かった。12月は1年の中でも受注量の多い月ではあるが、コロナの第3波もあり、多くを期待できない状況にある。雇用調整助成金の来年2月までの延長が決まったが助成金に頼ることなく、暫く続きそうであるコロナ禍の中で利益を出せる施策がないか頭を悩ます日々が続いている。

<窯業・土石製品>

11. 生 コ ン・11月は昨年同月と比較して約33%減少。要因を挙げると昨年のこの時期トンネルの舗装用コンクリートのまとまった打設があり一時的に出荷量が増えていただけで、今年度は新規発注工事も少なく、例年並みの出荷量であった。
12. 生 コ ン・11月の出荷数量は、対前年同月比13%減であった。要因としては出荷数量が前年同時期と比較して、官民工事とも当初の計画通り出荷が進んでいるが、反して新規工事の減少が影響している。懸念事項としては運転手の高齢化と若年層の人材不足が深刻な問題であり、今後の緊迫した課題として対応が迫られている。

<鉄鋼・金属>

13. 鉄 鋼・業況感に大きな変化はなく、設備操業度など概ね横ばい状況で推移している。景気動向は弱さを残しつつも、持ち直しの動きがみられているとのことであるが、景況感に変化は感じられず、また、回復に向けての強さも感じられない。新型コロナウイルス感染拡大のため、まだまだ先行きが見通せない状況にあり、不透明感が漂っているところである。
14. ス テ ン レ ス・国内の状況については、大手を中心に徐々に回復傾向にあるが中小では動きは鈍く全体的には様子見の状況が継続している。海外での営業活動についても、地域によっては徐々に再開しつつあるが、米・欧州での感染拡大が懸念されており、コロナ禍以前と同様までの回復はまだまだ見通しが立たない状況にある。引き続き感染予防対策を継続しながら、企業活動を展開している。

<一般機器>

15. 機械金属・新型コロナウイルスの感染状況は、全国的にその影響が再拡大してきており、営業活動の停滞等により売上高や引合いなどに、引き続き厳しい状況が多く見られ、景況感の悪化が懸念される。加えて、熟練技術者をはじめ従業員の確保難、原材料価格その他の経費の増加なども、直面する経営上の課題として見受けられ、先行きの見通しが不透明で、将来に対する不安感が拭えない状況である。

【非製造業】

<小売業>

16. ショッピングセンター・11月の売上高の前年対比は全店計97.2%（既存店99.1%）、客数93.7%（既存店97.0%）だった。前年は営業店舗28に対し、今年は20店舗の数字だ。組合員は11店舗あるが、7店舗が前年の100%を超えており、前年対比102.6%と好調だった。改装のため一時は営業店舗が14・15店舗まで減少していたが、1店舗1店舗オープンするにおいて徐々に活気を取り戻して来た。11月13日に最後の組合員店がリニューアルオープンして、残るは12月4日にオープン予定のニトリだけとなった。6月より始まった改装もいよいよ終わりだ。催事場もなくなる程、店舗で売場が埋まった。ニトリという大型店を迎えて組合員店も気合を入れる。
17. 量小売業・11月も好天に恵まれ、表替中心に一般家庭の仕事があった。ハウスメーカーの仕事もやや増えてきた。営業用（ホテル、飲食関係）は、やはり少ない。12月もコロナがでないように祈るのみ。
18. 機械器具・海外からの輸送コストも上昇し始めたため、仕入れコストの上昇の話が聞こえだした。
19. 電気機器・コロナ禍で積極的な販売促進策（個展・合展・訪販等）は自粛気味であるが、エアコン・大型テレビは底堅い買換需要があり、大きな落ち込みはなかった。

<商店街>

20. 徳島市・夜、出歩く人が少し増えていたように思うがコロナの第3波の影響で減っているように思う。去年に比べ売上げが減っている店舗がほとんどである。
21. 徳島市・徳島はコロナがそんなに出ていないが、全国的に増えている影響で来客は少ない。Go Toキャンペーンで来られている人がチラホラ見受けられるが、売上げ増加に直結している感じはしない。
22. 阿南市・全体的に横ばい。

＜サービス業＞

23. 土木建築業・徳島河川国道事務所の令和2年度の去年との比較について、11月の動向は先月と大きな変化ない。工務課は新直轄工事は一部供用に向けて忙しく工事を進めている。猪ノ鼻道路は13日(日)に開通し事業は残り少ない。(附属施設、取合い等)牟岐バイパス・南環状線道路・桑野道路の事業は去年と同程度の工事量と思われる。道路管理課は「先月と同様」橋梁補修等が去年より多く発注され、当該業務は忙しくしている。維持管理費は去年同様、(清掃・除草・街路樹等)トンネル補修、橋梁補修・橋梁耐震補強は去年の数倍の予算がついている。交通対策課は「先月と同様」共同溝の整備事業が多く予定されているのでそれなりに忙しい。共同溝(無電柱化)は去年の3倍弱の予算がついている。12月中頃、来年度(令和3年度)の公告が発表の予定。
24. 自動車販売整備業・登録車(普通車)の新車登録台数は対前年同月比11.8%の1,369台、中古車は17.3%の433台、合計では13.1%の1,802台であった。軽自動車の新車登録台数は対前年同月比11.0%の1,261台、中古車-1.6%の365台、合計は7.9%の1,626台である。登録車・軽自動車の登録台数合計は対前年同月比10.6%の3,428台と増加。登録車、軽自動車ともに今年度二度目の前年度比がプラスという結果。詳しく見ると軽自動車の中古車販売台数のみ1.6%減となったが、登録車は13.1%増、軽自動車は7.9%増、全体としては10.6%増となった。10月、11月は毎年販売台数の落ち着く時期ではあるが、昨年のこの時期は増税後の反動減で非常に大きな落ち込みとなった事が今月の前年度比がプラスになった要因でもある。収益情報の目安とみている継続検査の台数は、登録車は6.2%増、軽自動車は-3.4%となった。
25. 旅行業・10月に比べると、少しは動きが出てきたように思われるが年内に廃業する会社も何社もあり、あまり良い状況とは言えない。
26. ビル管理・近年、取引条件がほとんど変化しない中、最低賃金の引き上げが続いている。(H25年・666円→R2年・796円)。このような急激な最低賃金の引き上げに伴う影響が確実に現れてきている。更に、働き方改革への対応、労働需給の逼迫、先般成立した社会保険(厚生、健康)改革法の施行に向けての対応など多くの課題に包まれている状況だ。加えて、新型コロナウイルス感染症の拡大回避の影響が長期に及んでいるホテル分野のメンテナンス業務においては、経営や人材確保、業務遂行方法などについて影響があり、事業の縮小による減収や従業員の休業補償などが重い課題となってきている。ただ、このような長期に及ぶ厳しい状況下にあるものの、11月に至りいくらか回復の兆しも見えてきた。また、病院や高齢者利用施設等においては、管理者と連携し、細心の注意の下で業務を遂行しているところだ。全体としてみると、11月分は前年同時期と比べ、新型コロナウイルスの影響のケースを除き、大きな変化はない。しかしながら、現下の新型コロナウイルスの感染拡大に伴う全国の状況を見ると、今後、多様で深刻な影響が現れてくるのが眼前に想定され、これを念頭に事業活動に当たっているとところだ。

<建設業>

27. 建設業・公共工事は、地域的な格差がありますが、全体で前年に比較して15%程度増加している。
28. 電気工事業・新設住宅口数は237件であり、対前年比101.2%と微増した。
29. 板金工事業・11月は板金業界においては良い状態である。住宅及び非住宅と共に非常に忙しく人材が足りない状況だ。コロナ感染拡大の中でも資材等の制限もないので、9月頃の落ち込みを年末年始で少し回避出来そうだ。
30. 解体工事業・公共解体工事の発注と民間一戸建て建物解体工事と共に景況好転傾向であるが、地域別に見ると斑模様である。

<運輸業>

31. 貨物運送業・当組合員の内、住宅関係は低調、自動車部品素材は若干上向き、ビール関係も低調、インスタント食品は横這いに推移。全般的には低調。軽油単価は前月比若干の値下がりとなったが、来月は物流が低調に拘らず値上げ傾向となっている。
32. 貨物運送業・コロナ禍の中、貨物は徐々にではあるが回復傾向にある。しかしながらコロナ次第では依然として先行きが不透明でまだまだ非常に厳しい状況が続くものと思われる。軽油価格は前年比に比べると若干安い価格で推移してきているものの、12月には最近の原油高の影響を受け、一部値上がりするとの情報もあり、運送事業者には、不安材料である。